

7・2 作文メモ

要約

「そこをなんとか」という言い方はきわめてあいまいである。「そこ」とは何をさし、「なんとか」とはどういうことなのか。これをそのまま外国語に翻訳したらきっと伝わらないだろう。強いて説明するなら、「もう一度考え直して私の応急にに応じてください」とでも言うしかない。しかし外国人が断る場合は、それ以上頼んでも応じてくれる余地はない。ところが日本人は義理感情に絡まれて断るのに気が引けるように感じてしまう。

日本の絵画の特質には「余白」の美があるが、イスラムの芸術はびっしりと埋め尽くす。「そこをなんとか」することにより、日本の芸術も、その勝ちを決められるわけである。

2段落

もし自分がアメリカ人に頼みごとをしてあっさり断られたら

あっさりしすぎ

もう少し自分のことも考えてほしい

そんなにやるのが嫌なの？

なんかムカつく

(思いついたら変える)

3段落

もし自分がアメリカ人で日本人に頼みごとをしてしっかり答えてくれなかったら

やってくれるの？やってくれないの？

どっちなの？

ササッと決めてよ

早くして

(思いついたら変える)

4段落

頼んでいる身であっても文句が言いたくなる

イエスにはノーの要素を含みノーにはイエスの気持ちを含むと書いてあったけど、どっちははっきりさせてほしい

(書きながら付け足す)



